

Instagramの「いいね」数と幸福感

～承認欲求の違いと男女差～

1200470 辻井 誠人

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 序論

1.1 背景

ソーシャル・ネットワーク・サービス(以下, SNS)の利用者は年々増加しており、流行語にも影響を及ぼした。2017年度の自由民主党のユーキャン新語・流行語大賞に選ばれたのは「インスタ映え」である。これはInstagramというスマートフォンやタブレットで写真を投稿することができ、その被写体が見栄え良く映っていることを表した造語である。またその写真を投稿することによって写真を見た人から「いいね」をもらえるのがInstagramを利用する一つの理由となっている。

またInstagramにおける「いいね」は写真を投稿した者にとって簡単に手に入る報酬であり、「いいね」を多くもらうことに嫌悪感を抱くものは少なくポジティブな感情になることが考えられる。一方「いいね」が少ないと自分の投稿に興味関心を抱かなかったというネガティブな感情になることが考えられる。

Instagramで「いいね」を多くもらえることにポジティブに感じる強さは承認欲求(菅原, 1986)が関係しているのではないかと考えられる。また承認欲求が強い人は自分が投稿した写真に対して「いいね」を多くもらうことで幸福感がより上がり、次々と写真を投稿していくのではないかと考えた。本研究では、これらの疑問を検討する。

1.2 先行研究

菅原(1986)では従来承認欲求という概念で考えられてきたものの中には二種類の欲求があることが示された。承認欲求は他者から賞賛され、好かれない欲求と他者から嘲笑されたり、拒否されたくない欲求からなるものだと考え検討した結果、それぞれ賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の二つの独立した欲求であることが示された。また、賞賛獲得欲求に関して

は女性より男性の方が平均値が有意に高いものの、拒否回避欲求に関しては平均値の方向としては女性の方がやや高いものの、有意な差がみられなかった。また定廣・望月(2011)によれば男性は賞賛獲得欲求が高く、女性は拒否回避欲求が有意に高いことが示されている。

加藤(2014)によれば他者との良好な関係を形成・維持するためにSNS上の「いいね」等の機能を利用するものがあると考えられ、承認欲求とSNS利用は少なからず関係があると考えられる。賞賛獲得欲求が高いと他者に喜んでもらう為、または自分自身に対してよい印象を抱かせるため必要以上に「いいね」を利用し、拒否回避欲求が高いと他者からの否定を避けるために必要以上に利用している者もいると考えられる。しかし「いいね」機能を有する代表的なSNSが「facebook」が10代に浸透する前だったため、研究結果からは明らかにならなかった。

門脇(2019)ではInstagramの使用率と承認欲求の男女差の有無を調査する研究である。承認欲求については小島・太田・菅原(2003)の尺度を使い測定し、賞賛獲得欲求及び拒否回避欲求ともに男女差は見られなかった。またInstagramと承認欲求との関連は見られなかった。一方Instagramの使用率に男女差がみられ、女性の方が多く使用していたことが示された。また承認欲求が強い人ほどこだわって写真を投稿していることが示された。

諸井(1987)では男性の方が女性よりも孤独感が強いことが示された。これは性役割上、情動的弱さや苦悩表現が許容されないことが考えられる。女性においては自己呈示変容能力や他者の表出行動に対する敏感さ、私的及び公的自意識が男性よりも有意に高いことが示された。

2. 本研究の目的

本研究ではInstagramの「いいね」がもたらした時の幸福感と承認欲求の関係について検討し、今回の投稿行動と承認欲

求との関係も検討する。

先行研究（定廣ら，2011）を受け、承認欲求の男女差に関しては以下の通り予測する。男性では賞賛鶴翼欲求が高くなり、女性は拒否回避欲求が高くなると考えられる。また女性の方が他者の行動に敏感かつ公的自意識が男性よりも高いことから Instagram で「いいね」を多くもらえることに幸福感をより感じると考えられる。上記を踏まえて女性が「いいね」をもらえて幸福感を感じるのには承認欲求で説明ができると予想する。

また Instagram の「いいね」が少ないとき、拒否回避欲求の強い人は他者が投稿に対して「いいね」と思わなかったとネガティブに感じ、次回の投稿行動が抑制されると予想される。逆に賞賛獲得欲求は拒否回避欲求とは異なる対立的な欲求ともいえるので、賞賛獲得欲求の高い人は次回の投稿行動が促進されるのではないかと予想できる。

それぞれを検証し、明らかにしていくことが本研究の目的である。

仮説

1.1 男性は女性よりも賞賛獲得欲求が高く、女性は男性よりも拒否回避欲求が高くなるだろう

1.2 予想よりも多く「いいね」がもらえた時に、女性の方が幸福感を高く感じるだろう

1.3 予想よりも多くの「いいね」がもらえた時女性の方が幸福感を高く感じるのには、女性の拒否回避欲求の高さで説明されるだろう

2.1 Instagram で予想よりも少なく「いいね」をもらえた時拒否回避欲求が高いと次回の投稿行動を抑制するだろう

2.2 Instagram で予想よりも少なく「いいね」をもらえた時賞賛獲得欲求が高いと次回の投稿行動を促進するだろう

3. 方法

3.1 調査対象者

高知工科大学の学生 154 人（男性 86 人、女性 65 人、不明 3 人）を対象にアンケートを実施した。

3.2 調査方法

本調査は令和元年 10 月 3 日に実施した。

3.3 質問紙の概要

初めに被験者に下記の文章を読ませた。

あなたは Instagram をやっています。フォロワーは 150 人います。あなたは今日きれいな写真が撮れたので Instagram に投稿しました。あなたはこの投稿に対して「いいね」が 50 個もらえると予想しました。

次の日に見てみると実際はこの投稿に対して「いいね」は X 個ついていました。

なお、上記のシナリオの X には「いいね」が増えた時として $X=70$ 、同じ時として $X=50$ 、減った時として $X=30$ の 3 つのバージョンがあり、被験者にはそれぞれのシナリオを読んだ後に幸福感の質問を 4 項目 5 件法で回答させた。さらに、次回の投稿確率を 0~100% で回答させた。

次にリスク選好質問紙項目の 2 項目を「1: 全くリスクをとらない」~「6: 積極的にリスクをとる」の 6 件法で回答させた。

次に承認欲求（小島・太田・菅原，2003）について質問した。承認欲求では、賞賛獲得欲求に関する質問を 9 項目、拒否回避欲求に関する質問を 9 項目の計 18 項目を質問した。最後にインターネット利用、Instagram の利用に関する質問項目を入れた質問紙構成となっている。

3.4 幸福感の質問

「あなたはこの場でどのくらい幸せを感じると思いませんか」「あなたはこの場でどのくらいうれしいですか」「あなたはこの場でどのくらい満足しますか」の 3 項目と「あなたはこの場でどのくらいがっかりしますか」の 1 項目を「1: 全く感じない」~「5: とても感じる」の 5 件法で回答させた。

3.5 賞賛獲得欲求

尺度は小島・太田・菅原（2003）賞賛獲得欲求尺度を利用した。「皆から注目され、愛され有名人になりたいと思う」「人と話すときにはできるだけ自分の存在をアピールしたい」など 9 項目を「1: 全く当てはまらない」~「5: よくあてはまる」の 5 件法で回答させた。

3.6 拒否回避欲求

尺度は小島・太田・菅原（2003）拒否回避欲求尺度を利用した。「優れた人々の中にいると、自分だけが孤立していないか気になる」「人から敵視されないように、人間関係には気を付けている」など 9 項目を「1: 全く当てはまらない」~「5: よくあてはまる」の 5 件法で回答させた。

3.7 インターネット利用、Instagram の利用

「一日の中でのスマホやタブレットなどでインターネットを使用している時間はどのくらいですか？Twitter などの SNS やゲームを使用している時間を含みます」を「1：1 時間未満」～「6：9 時間以上」の六件法、「どのくらい Instagram を利用していますか」は「0：全く利用していない」～「4：非常に頻繁に利用している」の五件法で回答させた。また Instagram の使用理由については「写真を投稿するため」「情報収集のため」など七項目を複数回答可とした。一度でも Instagram を利用したことのある人には「Instagram をしていると楽しい」「いいねの数、閲覧数を気にする」など七項目を「1：全く当てはまらない」～「5：よくあてはまる」の五件法で回答させた。またフォロワー数、いいねの数、月の平均投稿頻度を自由回答で回答させた。

4. 結果

すべてのデータはHADを用いて統計分析を行った(清水, 2016)。

4.1 因子分析

承認欲求に関する質問項目を因子分析した結果、賞賛獲得欲求、拒否回避欲求ともに想定していた項目がそれぞれ 2 因子に分かれた。これは先行研究と同じ結果になったので Factor1 を賞賛獲得欲求、Factor2 を拒否回避欲求として、今後の分析で使用する。

表 1 承認欲求の質問項目を因子分析

項目	Factor1	Factor2	共通性
q5.4	.763	.047	.593
q5.1	.751	-.024	.561
q5.6	.745	.013	.557
q5.2	.742	-.005	.550
q5.9	.711	.064	.520
q5.3	.692	-.085	.473
q5.7	.669	-.070	.443
q5.8	.659	-.007	.434
q5.5	.644	.061	.428
q5.13	.036	.796	.642
q5.12	-.056	.723	.517
q5.17	-.091	.707	.494
q5.11	.057	.692	.491
q5.10	.047	.691	.487
q5.15	-.006	.661	.436
q5.16	.008	.649	.422
q5.14	-.020	.643	.411
q5.18	.016	.567	.324

次にシナリオごとの幸福感について質問をした問 1～問 4 の因子分析を行った結果を表 2～4 に示した。

表 2 「いいね」が増えた時の幸福感の因子分析

項目	Factor1	共通性
q1.2	.924	.855
q1.1	.888	.788
q1.4	.690	.476
q1.3	-.253	.064

表 3 「いいね」が同じの時の幸福感の因子分析

項目	Factor1	共通性
q2.2	.928	.862
q2.1	.895	.801
q2.4	.671	.450
q2.3	-.262	.069

表 4 「いいね」が減った時の幸福感の因子分析

項目	Factor1	共通性
q3.2	.911	.831
q3.1	.818	.670
q3.4	.756	.571
q3.3	-.470	.221

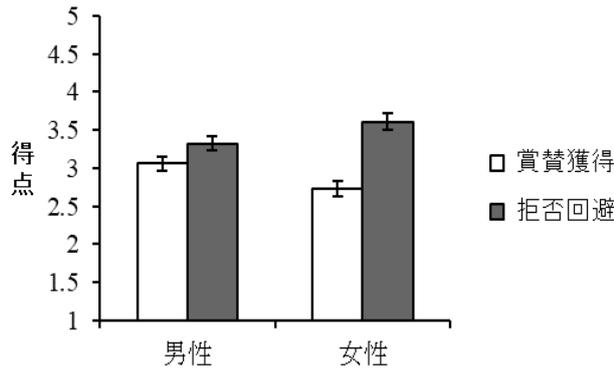
表 2 の Factor1 を増加時幸福感、表 3 の Factor 1 を同じ幸福感、表 4 の Factor 1 を減少時幸福感とし今後の分析で使用する。

4.2 仮説検証

仮説 1.1

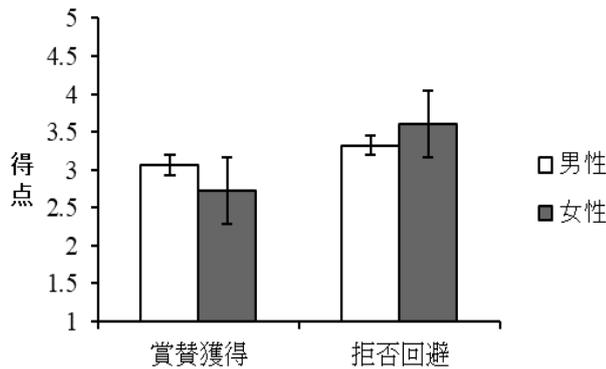
賞賛獲得欲求と拒否回避欲求を従属変数、Sex と承認欲求を独立変数とした二要因分散分析をした結果、Sex には主効果は見られなかった ($F(1, 149) = .04, ns.$)。承認欲求の主効果は見られた ($F(1, 149) = 37.21, p < .05$)。Sex と承認欲求の交互作用も有意だった ($F(1, 149) = 10.93, p < .05$)。交互作用が有意だったので Sex ごとに承認欲求の単純主効果を検討した分析結果を図 1 に示す。男性における承認欲求の単純主効果は有意であった ($p < .05$)。また女性における承認欲求の単純主効果も有意であった ($p < .05$)。

図 1 Sex ごとに承認欲求の単純主効果検定



次に承認欲求ごとに Sex の単純主効果を検討した分析結果を図 2 に示す。賞賛獲得欲求における Sex の単純主効果は有意に差があった ($p < .05$)。また拒否回避欲求における Sex の単純主効果も有意な差があった ($p < .05$)。よって、仮説 1.1 は支持された。

図 2、承認欲求ごとに Sex の単純所効果検定



仮説 1.2

増加時幸福感と同じ幸福感と減少時幸福感を従属変数、Sex とシナリオを独立変数とした分散分析をした結果、Sex の主効果は見られなかった ($F(1, 149) = 0.101, ns.$)。シナリオでは主効果が見られた ($F(2, 298) = 164.546, p < .05$)。交互作用は見られなかった ($F(2, 298) = 0.293, ns.$)。

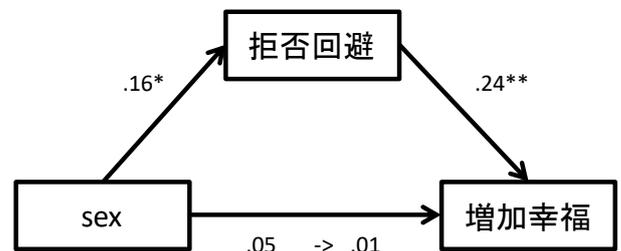
Sex 別の増加幸福感に対して、対応のない t 検定を行った結果有意差は見られなかった ($t(.09) = -.665, ns.$)。よって、仮説 1.2 は支持されなかった。

仮説 1.3

次に Sex が幸福感に及ぼす影響について、拒否回避欲求が

媒介するかどうかを確かめるため媒介分析を行った。まず、幸福感を目的変数に、sex を説明変数にした回帰分析を行った。この結果、sex は幸福感に有意に予測していなかった ($b = .06, SE = .093, t(149) = .644, ns.$)。さらに拒否回避欲求を説明変数に追加した結果、拒否回避欲求は幸福感を有意に予測し ($b = .155, SE = .052, t(148) = 2.975, p < .05$)、一方で sex の効果は有意にならなかった ($b = .015, SE = .091, t(148) = .165, ns.$)。よって、仮説 1.3 は支持されなかった。

図 3 媒介分析



仮説 2.1、仮説 2.2

次に減少時投稿予測、拒否回避欲求、賞賛獲得欲求の相関分析を行った結果を表 5 に示した。

表 5 承認欲求と減少投稿予測の相関分析

	賞賛獲得	拒否回避	減少時投稿予測
賞賛獲得	1.000		
拒否回避	.096	1.000	
減少時投稿予測	.035	-.008	1.000

賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、減少時投稿予測ともにどの項目とも有意な相関はみられなかった。よって、仮説 2.1、2.2 ともに支持されなかった。

4.3 探索的分析

Instagram の利用について質問の「どのくらい Instagram を利用していますか」と賞賛獲得欲求、拒否回避欲求の相関分析を行った結果を表 6 に示す。

表 6 承認欲求 Instagram の利用の相関分析

	賞賛獲得	拒否回避	Instagram利用
賞賛獲得	1.000		
拒否回避	.096	1.000	
Instagram利用	.278 **	-.038	1.000

賞賛獲得欲求は Instagram 利用 ($r = .278, p < .05$)との間に有意な相関があった。

一度でも Instagram を利用したことのある方に回答させた質問項目の「いいね」の数、閲覧数を気にする」「いいね」が多いと、認められたように感じる」「Instagram に投稿する際に、一枚の写真を撮るのに手間暇をかけている」と承認欲求との相関分析を行った結果を表 7 に示した。分析では「いいね」の数、閲覧数を気にする」を q7.3、「いいね」が多いと、認められたように感じる」を q7.4、「Instagram に投稿する際に、一枚の写真を撮るのに手間暇をかけている」を q7.5 とし行う。

表 7、承認欲求と q7.3、q7.4、q7.5 の相関分析

	賞賛獲得	拒否回避	q7.3	q7.4	q7.5
賞賛獲得	1.000				
拒否回避	.096	1.000			
q7.3	.286 **	.313 **	1.000		
q7.4	.313 **	.293 **	.756 **	1.000	
q7.5	.110	.145	.504 **	.443 **	1.000

賞賛獲得欲求は、q7.3 ($r = .286, p < .05$)、q7.4 ($r = .313, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。拒否回避欲求は、q7.3 ($r = .313, p < .05$)、q7.4 ($r = .293, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。q7.3 は、q7.4 ($r = .756, p < .05$)、q7.5 ($r = .504, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。q7.4 は、q7.5 ($r = .443, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。

承認欲求、減少時投稿予測、リスク選好で相関分析を行った結果を表 8 に示す。

表 8、承認欲求と減少時投稿予測とリスク回避の相関分析

	賞賛獲得	拒否回避	減少時投稿予測	リスク選好
賞賛獲得	1.000			
拒否回避	.096	1.000		
減少時投稿予測	.035	-.008	1.000	
リスク選好	.105	-.322 **	.124	1.000

拒否回避欲求が、リスク選好 ($r = -.322, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。

承認欲求、増加時投稿予測、同じ時投稿予測の相関分析を表 9 に示す。

表 9 承認欲求と増加時投稿予測と同じ時投稿予測の相関分析

	賞賛獲得	拒否回避	増加時投稿予測	同じ時投稿予測
賞賛獲得	1.000			
拒否回避	.096	1.000		
増加時投稿予測	.225 **	.185 *	1.000	
同じ時投稿予測	.197 *	.147 +	.758 **	1.000

賞賛獲得欲求は増加時投稿予測 ($r = .225, p < .05$)、同じ時投稿予測 ($r = .197, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。拒否回避欲求は増加時投稿予測 ($r = .185, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。増加時投稿予測は同じ時投稿予測 ($r = .286, p < .05$)との間に有意な相関がみられた。

5. 考察

今回の研究結果から先行研究の門脇(2019)では見られなかった承認欲求に有意な男女差がみられた。賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の両者において有意な男女差がみられ、賞賛獲得欲求では男性の方が高く、拒否回避欲求では女性の方が高くなっている。したがって、仮説 1.1「男性は女性よりも賞賛獲得欲求が高く、女性は男性よりも拒否回避欲求が高くなるだろう」は支持された。

菅原(1986)の研究で見られたように、賞賛獲得欲求が男性の方が有意に高い結果がみられた。しかし、菅原(1986)の結果では拒否回避欲求には有意に男女差がみられなかったが今回の研究では有意に女性の方が高いという結果がみられた。仮説 1.2「予想よりも「いいね」がもらえた時に女性の方が幸福感を高く感じるだろう」と仮説 1.3「予想よりも多くの「いいね」がもらえた時女性の方が幸福感を高く感じるのは、女

性の拒否回避欲求の高さで説明されるだろう」とともに支持されなかった。

仮説 1.2 では「いいね」が増えたとき女性のほうが幸福感を高く感じるだろうと予想していたが有意な関係はみられなかった。「いいね」が増えたとき女性だけでなく男性も同じように幸福感が上がっていることが示された。

仮説 1.3 も支持されなかった。Sex と拒否回避欲求、拒否回避欲求と増加時幸福感それぞれでは有意な関係があると示されたが、Sex と拒否回避欲求と増加時幸福感の関係は間接効果の検定 (Bootstrap) で有意な関係があるとは言えなかった。仮説 1.2 の分析結果から増加時幸福感に性差はなくともに同じくらい幸福感を感じるということが示された。また拒否回避欲求だけでなく賞賛獲得欲求も同じくらい「いいね」を多くもらった時認められたように感じるため拒否回避欲求だけの説明はできないことがと考えられ、賞賛獲得欲求とも関係があると考えられる。今後の研究では両欲求が高い群、賞賛獲得欲求のみが高い群、拒否回避欲求のみが高い群、両欲求が低い群の 4 つに分けて検討してみる必要がある。

仮説 2.1 「Instagram で予想よりも少なく「いいね」をもらった時拒否回避欲求が高いと次回の投稿行動を抑制するだろう」、仮説 2.2 「Instagram の予想よりも少なく「いいね」をもらった時賞賛獲得欲求が高いと次回の投稿行動を促進するだろう」とともに支持されなかった。承認欲求と次回の投稿行動に有意な相関は見られなかった。探索的研究より「いいね」が予想よりも少ない時、リスク選好が高い人ほど次回の投稿行動が抑制されるのかもしれないと考えたが有意な相関は見られなかった。

また、「いいね」が増えた時の次回の投稿行動は賞賛獲得欲求と拒否回避欲求ともに正の相関がみられた。「いいね」が同じ時の次回の投稿行動は「いいね」が増えた時よりは弱い、賞賛獲得欲求と正の相関がみられ、拒否回避欲求では有意ではないが正の相関がみられた。このことから次回の投稿行動は「いいね」の数に関係していることが示唆される。「いいね」が減った時の次回の投稿行動では次回の投稿で「いいね」を多くもらうために手間暇をかけている者がいると考えられるが今後の研究で検討する必要がある。

また、賞賛獲得欲求が高い人ほど Instagram を利用してい

ることが示され、これは SNS の特徴ともいえる。正木 (2018) によれば SNS は自分の意に沿わない相手はブロックができ、拒否回避的ツールといえることから賞賛されやすく、拒否されにくいもといえることが示されている。承認欲求が強いほど「いいね」の数、閲覧数を気にし、多くもらえると認められたように感じることも示されたが、投稿する際一枚の写真を撮るのに手間暇をかけているとは相関がないことが示された。しかし「いいね」の数、閲覧数を気にしている人は「いいね」が多くもらえると認められたように感じ、投稿する際に一枚の写真を撮るのに手間暇をかけていることが示された。

6. 引用文献

- 門脇 (2019) Instagram における男女の承認欲求の違い
加藤 (2014) 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求からみた青少年の SNS 利用
正木 (2018) 承認欲求についての心理学的考察 : 現代の若者と SNS との関連から
諸井 (1987) 大学生における孤独感と自己意識
小島・太田・菅原 (2003) 賞賛獲得欲求、拒否回避欲求尺度
定廣・望月 (2011) 演技パターンに影響を与える諸要因の検討
一日常生活演技尺度の作成および賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連
清水裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD : 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実施における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.
菅原 (1986) 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求—公的自意識」の強い人に見られる 2 つの欲求について—心理学研究, 3, 134-140